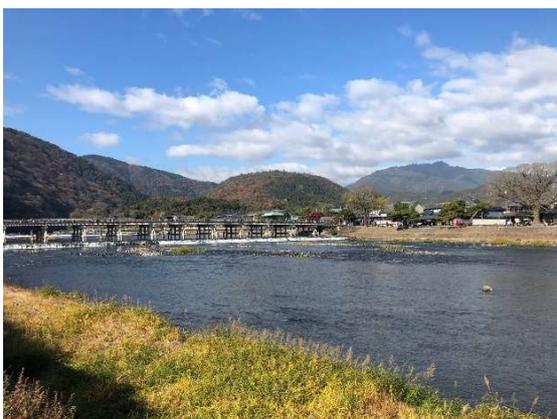


2. 渡月橋

◇諸元等

所在地：京都市右京区嵯峨中ノ島町
道路名：京都府道 29 号（宇多野嵐山山田線）
河川名：桂川（大堰川）
建設年：1934 年（昭和 9 年）
形 式：鉄骨鉄筋コンクリート桁橋
橋 長：155m
幅 員：12.2m



桂川右岸下流側より



親柱および欄干

◇歴 史

836 年（承和 3 年）に僧である道昌が架橋したのが始まりとされ、当初は 100m～200m ほど上流にあったと言われている。また、もとは橋の南にある法輪寺に因んで「法輪寺橋」と称されていたが、鎌倉時代に亀山上皇が橋の上の月を眺めて「くまなき月の渡るに似る」と感想を述べ「渡月橋」と命名された。

しかし、付近は洪水が多く橋はたびたび流失し、応仁の乱など戦乱による焼失もあり、1606 年（慶長 11 年）に角倉了以によって保津川の開削工事とともに、現在の位置に架け替えられ、現代にまで残る渡月橋の原型となっている。

◇特 徴

現在の橋は 1934 年（昭和 9 年）に完成した鉄骨鉄筋コンクリート桁橋だが、景観との調和を図るため意匠は木製の旧橋を受け継いでいる。橋面は中央部が約 1m 高い弓なりの形状で、高欄も従来と同じ木造角格子式が採用されている。欄干が木造であることから、自動車が衝突した際に欄干を突き破って川底に落下したり、煙草の火によって欄干が燃える事故も発生している。

橋には照明施設がなかったが、2005 年（平成 17 年）に地元の任意団体である「京都嵐山保勝会」が関係機関の協力を得て、橋の上流にあたる西高瀬川との分岐部にサイフォン式小型水力発電機を設置し、そこで得られた電力により、夜間帯に LED 照明を用いて橋を照らしている。また、関西電力と相互に供給できる体制（系統連系）が採られており、売電による利益は周辺の清掃などの活動資金に使われている。

◇洪水対策

2013年（平成25年）の台風18号では桂川が氾濫し、渡月橋周辺の嵐山地区で93戸の浸水被害が発生し、観光や地元経済に甚大な被害が生じた。この洪水被害を契機に2014年から桂川緊急治水対策事業が実施され、これまでに堆積土砂の撤去工事や6号井堰の撤去工事が実施され、現在、可動式止水壁（堤防機能を有する）により左岸溢水対策、一の井堰改築、堰改築を含む派川改修が進められている。



左岸側溢水対策



可動式止水壁

◇参考資料

- 1) フリー百科事典 Wikipedia : <https://ja.wikipedia.org/wiki/渡月橋>
- 2) 京都市建設局：京（みやこ）の橋しるべ 第6号，平成26年10月
- 3) 国土交通省淀川河川事務所ホームページ : <https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/>